

第1回海陽町観光施設のあり方検討委員会
議事録

日 時：令和6年2月6日（火） 15：00～17：00

場 所：ふれあいの宿 遊遊 NASA 会議室

出席者：委員8名中8名出席

事務局：海陽町観光交流課 戎谷課長、森主幹、大久保課長補佐、濱田主事

■開会

（海陽町 横副町長）

（開会あいさつ）

■委員紹介、委員長、副委員長選出

（事務局・戎谷）

（資料1「海陽町観光施設のあり方検討委員会について」を説明）

（委員から、委員長は、田口太郎氏、副委員長は山田直人氏を推薦する旨発言あり、
意義なく選任された）

（田口委員長）

（委員長あいさつ）

■議事（1）海陽町を取巻く状況について

（2）観光施設の概要と現状について

（3）対象施設の運営状況について

（事務局・森）

（資料3「海陽町を取巻く状況について」を説明）

（資料4「観光施設の概要と現状について」を説明）

（別紙1）施設概要（ふれあいの宿遊遊 NASA）

（別紙2）施設概要（Hotel Riviera ししくい）

（別紙3）施設概要（道の駅穴喰温泉）

（資料5「対象施設の運営状況について」を説明）

（田口委員長）

今回はですね、町だとか対象施設の状況について理解するというのが主たる目的だと思

いますので、今事務局から、かなり細かく説明いただきましたが、もうちょっと、今後教えてほしいとか詳しい資料が欲しいとか、疑問点がある方は、ぜひいかがでしょうか。

(青木委員)

キャンプ場としてはまぜのおかオートキャンプ場が県内では人気の施設だと思うんですけど、こちらの収支がもし分かれば教えていただきたい。

(田口委員長)

たとえば、まぜのおかオートキャンプ場は、結構利益が出て黒字になっているとか？この6施設で今、3つは状況がきびしいという話だと思うんですけど、残り2つはいかがでしょう。

(横委員)

まぜのおかオートキャンプ場につきましては、全体の売上げの収入としては、およそ1億円近くあって、指定管理料が4,950万円になっています。収支で言うと、昨年度はちょっと赤字だと思います。

(田口委員長)

行政から約5,000万の指定管理料が出て、およそ収支差がゼロ状態がまぜのおかオートキャンプ場ということですね。マリンジヤムはどうでしょうか。こちら直営ですよ。

(事務局・戒谷)

マリンジヤムについては直営で、昨年度については、コロナ対策のいろいろな施策もあって、近年では最高額の2,000万の売り上げがあったと、それ以前は大体コロナ禍を除けば1,000万～1,200万ぐらいの売り上げというところになってます。

(田口委員長)

収支で言うと？

(事務局・戒谷)

支出については、3,000万前後だったと思います。収支でいうと1,000万前後、1番少ない時で600万ぐらいの赤字だったと思います。

(田口委員長)

結構赤字が出てており、黒字はなかなか難しいということですね。

(真鍋委員)

人口減少が進む中ではあるが、海陽町観光ガイドブックなどを拝見すると DMV などの魅力あるコンテンツがあり、町としても観光業に力を入れていると感じます。事務局が用意された資料では、宿泊客の県内県外比率も用意いただいているが、「県外」の方が多く、「観光」又は「帰省・催事等」での利用が多い状況にあります。「県外」の方の中には「海外」の方もいるかと思うが、「海外インバウンド客」などの利用状況等のデータはありますか。他会議において、『海外の方の利用が増えると平日の稼働率が高くなる』との意見を聞いたことがあり、シニア層やお遍路以外の利用客促進や稼働率向上に繋がるターゲットのデータについても今後の検討に必要と考えられます。

(真鍋委員)

2 点目が、観光施設に対して町が行った補助金等の状況について整理していますか。また、今後の修繕見込額や設備投資見込額についても整理されていますか。

(真鍋委員)

あとは、宿泊施設を利用された方が周辺で出費を行う経済効果について町で整理していますか。整理されているならばその分析について教えてほしい。

(事務局・森)

インバウンドの利用状況は、手持ちではございません。リビエラ、NASA に直近のデータを含めて整理しているかを確認しなければあるかどうかともわかりません。あるとしてもちょっと数年かなと思いますので、次回の検討委員会で、御報告出来たらというふうに考えております。インバウンド向けの対応ですが、町も含めていなんですけれども、力を入れているというようなところありまして、直近で言いますと、台湾ツアーの際には、海陽町にもお客様が来たというようなところありまして、DMVに乗って、リビエラで昼食をとって、そのあとは、マリンジャムのほうに行ってください、高知へ抜けていくっていうような、そういったツアーが組まれていましたので、そちらのほうも町を挙げて対応したというふうなところでございます。おっしゃられるとおり、インバウンドのお客様は、かなりお金が落ちる、使っていただけるというようなところございますので、そういったツアーの折には、町を挙げて対応していく形で考えております。

(事務局・森)

費用の面ですね、今現状で整理しているデータ、資料で言いますと、先ほど資料 5 の 2 ページのところがございます。ちょっと一部しかちょっと記載していないんですけれども、例えば、コロナ損害補填金につきましては、R2 年は 2,799 万 7,000 円、R3 は 1,431 万 2,000

円、R4 年は 253 万 3,000 円、を投入しております。コロナの備品購入代、につきましても、R2 年は 1,977 万 1,000 円、R4 は、233 万円、町の補助金を投入しております。これらは一部ですので補助金や町からの支出額について次回委員会で整理してお示しさせていただきます。

(事務局・森)

最後、経済効果についても今、データ等ありませんので。このあたりも、ホテルで 1 人お客様とったらどれだけ効果があるのかっていうところもあわせて御用意出来たらというふうに考えております。

(事務局・森)

これまでの修繕額ですが、状況としましては多くの設備等がかなりの年数がたっておりますので、やはり壊れたっていうようなものがあつたら、指定管理制度ですので町のほうで補修をしていっているっていうような形になります。過去の補修の実績等はデータがございますので、次回委員会でできるだけわかりやすい形で整理をさせていただきたいと思えます。

今後の維持修繕予定ですけれども、きちんとその各設備ごとであるとか、詳細な、見込みっていうのがなかなかデータを出すのは難しいんですけれども、一般的な耐用年数であるとか、その外壁だったら年数がどうこうあるので、いつ、どれぐらいの補修が必要になるのかなっていうようなところの積み上げっていうのは、データがとれるかなと思えますので、その辺りをちょっとまた整理をして、例えば今後 10 年どれぐらいかかりそうとかかを次回委員会までに用意させていただきたいと思えます。

(山田委員)

資料 5 の 2 ページ。対象施設の運営状況ということで、H28 年が営業損益がプラスになっていると、その後の年の下がり方が急激なのは何か理由があるんでしょうか？その検証はできているのか？

(事務局・森)

事務局のほうの一部分析・意見になるんですけれども、まず、H28 年逆打ちが終わってイベントが終わったのも一部あると思えます。あと、この頃というのは OTA というものが、主流になってきていた時期になると思えます。個人で旅行をするときに、かつてはホテルに電話をして予約するっていうのがありましたが、ほぼなくなって来ており、個人が旅行するんだつたら、OTA を使って、ホームページをじゃらんで開いて、点数を見て、いいホテルなら、予約をするということになってきております。(H28 以降の営業損益が急激に下がった) H29 年、H30 年当時、OTA については、リビエラと N A S A は対応してご

ございませんでした。町の指定管理制度、三セクで運営していたところもあろうかと思うんですけども、そこら辺の対応がこの時期でなくて、お客様が離れて行ったのかなというところが一部あろうかと思います。

(横委員)

やっぱり遍路、逆打ち 160 年ということで、遊遊 NASA にしてもこれまでもやはりお遍路さんの団体のお客さんがものすごく多かったわけで、OTA や、ネット販売にたよらなくても、団体の旅行会社、エージェンツ等を通じて、団体客、昼間、もしくは泊まり客が来てたのが、一気にこの需要というかね、お遍路周りの需要が集中的に来たわけで、本当に、個人客への対応は出来ていなかったということが大きな要因であったと思います。

(田口委員長)

ありがとうございました。それにしても随分急激な印象があって、恐らく選択肢の中に入れなかったんだと思うんですけども、ただ、一般にはもうちょっと早く気づかないとねっていう気はしますが。

(山田委員)

水道光熱についてもっと詳細に出ないんですか。普通民間だったら、ガス代、電気代、水道代って分けてしかるべきと思うんですが。

(事務局・森)

今ちょっと手持ちや資料ございませんで、次回委員会のほうで資料をお示ししたいと思います。

(山田委員)

漁火収支状況について、短期借入、長期借入を合わせて 1 億 2,000 万ぐらいあるんですが、短期に関しては 1 年間多分返済できるであろうという見込みなんでしょうけども、約 3,500 万ぐらい。

(事務局・森)

短期につきましては、御指摘のとおり 1 年の間で返すというような形になっておりますので、それぞれの年度、短期借入れしているんですけども返してきていると。今後についても、短期のほうは、年度の中で返していくというような形で予定しております。

(山田委員)

(資料 5 補足資料の 8 頁部分)令和元年にコンサルタント料を 2,000 万円、令和 2 年 1,466

万 2,000 円、令和 3 年では 60 万円払っている。コロナの時期であったと思うんですが、このコンサルを入れたことで、令和 4 年度に一定の効果が出たと思っていいのか。

(横委員)

コンサルが入った経緯としては H29、H30 と売上が下がってきたときに何とかしなければならぬということでの時期に入れたもの。内容としては経営改善に向けた分析について、光熱費の高い状況、稼働率とか、海陽町の施設が全国的に、平均的にどういう状況にあるかという分析は今まで出来ていなかったの、そういうところも踏まえて、改善すべき点をコンサルタントを入れて改善を図ったところ。先ほど（事務局から）説明のあった、OTA とかにつきましては、コンサルを入れた中でシステム導入し対応した部分となる。光熱水費が高い状況の中で、経営改善を図るには浴場の大規模改修を行う必要であるというような計画まで立てていたところではあるが、コロナ禍もあり先行投資できていない状況。ただ、システムの改善の中では一定の効果効果は出てきたと考えている。事業を続ける中では部屋の模様替や浴場の大規模改修の必要性も考えていく必要がある。

(山田委員)

確かに売上原価の部分など令和 2 年度から削減できているのは見受けられる。今までの状況から相関的にみれば削減できているのかなとは思う。一方で支払手数料についてが令和 4 年度は 2 千万を超えてある。これまでと比べて増えてきている。

(横委員)

OTA 利用にかかる手数料によると思われる。

(山田委員)

納得した。

保守点検費の 500 万の内容は。

(横委員)

それぞれの施設にかかる設備管理などと思われる。

(山田委員)

特別損失の 210 万は。

(横委員)

動産・資産の資産評価の見直しなどと思われる。

(田口委員長)

漁火が指定管理によって運営してますけども、漁火の経営判断っていうのは、漁火の社内で単独で行われているのか、あるいは行政の意図がある程度入るのか。というのは、いかがでしょう。例えば、役員が送られているのか。行政の意図はかなり入っているのか。

(横委員)

漁火については、第三セクターということで、社長は町長で。副社長は副町長となっている。あとは漁業や農協といった関係機関が出資をして運営している。と、して、そのときその器系に対する営業助言というか、

(田口委員長)

では、経営に対する営業助言やある程度の責任っていうのは行政もそれなりに持ってて、行政の意図というか、企画が入っているということ。

(横委員)

基本的には第三セクターを設立した段階で、民間の手法でやっていくことから、株式の出資についても、町が半分ぐらいかなという話もあったがなかなか他からの出資も難しく。結果、町が 70%超えて出資することになったこともあり、ある程度町の意向も取り入れながら運営されてきたのは事実。宿泊施設としては国民宿舎みとこ荘があり、町営でありましたけれども、それは廃止して第三セクターの運営に任すような形で廃止した経緯もある。

(田口委員長)

この施設は行政がある程度こう整備して運営してると思うんですが、政策的な目的をどう考えているのか。例えば、それを利益を上げることを目的としているのか、誘客をすることによって施設外での支出という経済効果を狙っているのか。

(事務局・森)

資料で該当する部分についてですと、資料 4 の 4 ページと 5 ページをご覧ください。当時ですね平成 18 年、条例で条例設置をしたんですけれども、それぞれの業務内容というようなところを記載しておりまして、宿泊施設、温浴施設の提供、農林水産業の体験を通しての町住民と交流促進であるとかの機能等々が目的で条例設置をしているところになります。

(横委員)

そもそも、当時では明石海峡路大橋の開通を見込んで、海陽町に観光客が流れてくるだろうということで、その受皿となれたらということで考えられた。県南部で交流施設とい

うことで、旧町の海部町と穴喰町でそれぞれ整備されたということでございます。

（田口委員長）

それは誘客をする意義で？

（横委員）

そうですね、交流施設や観光の受け皿として。

（田口委員長）

先ほど聞くとそのシニア層の、例えばお遍路さんの利用が多いっていうのは、お遍路さんの行動パターン上、どうしてもこの周辺でお金を落とすかっていうと、必ずしも落とさないですね中継地点として。例えば家族連れとかここで例えば夏を過ごすとかってなると、そういう可能性が出てくる。だからちょっとその辺りも含めて、施設にどういうお客さんを誘客しようとするのかによって、多分判断するのは多分変わってくるようなところがあって、今のところはちょっとそこに関するビジョンはあまり明確ではなかったということですか。

（事務局・戒谷）

はい、一応ですね。過去からの歴史を辿れば、四国遍路道の寺間の中間地点というところで、この町は、民宿等の宿泊施設が栄えた町という形になります。あと、水床湾という景勝地というの中で、観光産業が少し発展していったというところ。いつときのいいときから下がりつつある中で、観光業に携わる経済の活性化という流れの中で、考え出されたというところになります。あと、国民宿舎（みとこ荘）が衰退しつつあり、老朽化が進んでいく中で、二つの施設を整備して、もう一度復活しようということを狙ったということも聞いております。町内に落ちる経済循環的な要素的なところからすれば、この二つ施設あることによって、観光客等も増えて（町内に）お金が落ちるような施策になっているかと思われます。

（田口委員長）

狙いとしては当初そういう話もそうですね、現状の評価は今日の委員会では難しくて、次は出してもらえそうでしょうか。その経済循環状況調査は。

（事務局・森）

そうですね、観光庁の資料で、一観光客、宿泊者がどれぐらい地域のほうに落ちるかっていうような資料があったかと思いますので・・・。

(田口委員長)

ただ、そうなんですけども、この周辺の場合、どこで落とすかかっていうところが、結構、課題がある気がして。というのは、観光客は、かなり属性によって訪れる施設に差が出るんですね。そのときに例えば、割とハイスペックの人たちが多いとなると、ハイスペックの人たちがお金を使う場所がこの周辺に本当にあるかどうか。この周辺はちょっと弱いかと。逆に言うと、家族連れとか、もう少し、低予算の人たちにとって恐らく結構ある気がするんですけど、その辺りのずれはどうなってるのかが気になるところ。

この宿泊向けアンケートみたいなやつで、どういうところ訪れてますか、幾ら使ったかはちょっと聞きにくいかもしれませんが。例えば、ここを利用した後にどういう施設を利用してるかみたいな、調査みたいなことをされているのか、あるいは特にしていないのか。

(事務局・濱田)

客室のアンケートでは四国の右下観光局に協力して置いてるものがありますので、ちょっと内容をまた確認してみます。

(田口委員長)

そういったところで施設の性格づけをしていかないと、なかなか何に使うかよく分かってこないっていうところ。

(青木委員)

リゾートホテルの分類において定員稼働率っていうのを経済研究所で出している。徳島県は全国で5位ぐらいだったかと。定員稼働率が高いというのは、リゾートホテルのニーズが高いだろうと言えるかと。そのエリア的な違いがありますけれども必要性はあるんだろうとは思う。あとは、県の政策を聞く機会があり、周遊を促進するためには県内県南部に観光客を送り込みたいという話が出るんですけど、どうしても困るところはまとまって泊まれるところがないのが課題と聞いている。そういうところでも必要性は恐らくあるだろうとは思われる。

(田口委員長)

海陽町の判断としてはそういったその便益が最終的にどこに落ちるかを踏まえて考える必要がある。確かに県は周遊促進には泊まれるところをと言うんだけど、何で観光客のために海陽町が資産をたくさん使わなきゃいけないんだとなってしまうので、それが海陽町の人に経済効果が出るのであれば、投資を行政としてやっていくのが妥当だということになる。それがきちんと地域に落ちてないとなると、それは果たして公共がやる仕事なのか。民間がやるには、ここで収益を上げれば、恐らく問題はないんですけども、公共でやるっていうことは、恐らくその収益周辺の収益性みたいなことを確認しなくちゃいけない。

その辺りの、公共である施設なのか民間でやる施設なんかによって位置づけの違いがあると思うんですね。その辺りはどういう状況であるかということは知りたいんですが。

(事務局・森)

追加でアンケートとりましょうか。

(田口委員長)

別に長期間でやる必要はないけれども。

(事務局・森)

短期間で1週間とか10日とかで。。

(田口委員長)

社会実験的に聞いたらと。当然季節ごとののは出るんですけど何もないよりははるかに良いと思います。理想的に言うとも地元でお金が落ちてほしいなっていう気はですが、ちょっとそういうことは考えていただければと。

(見吉委員)

議会とのギャップがあるのはそこなんです。これを運営することによって、この場所にどれだけの経済効果があるのか、ないのか。ないんであれば、町民の税金をどこまで入れるのか。町の財政的な体力的なことを考えたらどこまでやっていけるか。長きに渡って宿泊施設については、議会等で議論し、コンサルを入れ、あるいは義務的な光熱水費費に対してはE S C O事業やるなど、一般財源を入れながら、長きに渡って形を整えてきたけれども、状況が悪くなる一方で変わらない。現状はそこ。だから、もう振り返ってみて、まさに町に経済効果が発生しているのか、恩恵があるのか、ここら辺が1番のネックになっていると思います。議会サイドもいろんな意見を出しながら、いろいろやってきたけれども今の現状がある。なおかつ悪くなっている。(資料では)令和3年、4年と、少々右肩上がりになっておるんですけど、この要因はあくまでもコロナ対策の補助金に依存した形、指定管理の協定書の中で、緊急や天災とかの状況の中では(町費から)補填しますというのが、この表(資料)にはこういう形で出てきた。結局、原資は税金を入れていっており、より厳しい状況でございます。私は、今回委員に選ばれて来たんですけどね、皆さんの意見聞くようなことについてはずっと長きにわたって議会でもこういう意見のやりとりを続けてやってきた。では、これからの特効薬はどこにあるのか。もしこの特効薬はなかったら、町の体力的になかなか維持出来ないものである。議会はやっぱり懸念を持っているのは小さな町で宿泊施設が二つあり、道の駅も併せてこれを維持していく根拠がどこであるのか。ここら辺が1番の問題と思っている。委員会が終わったら当然議会にも報告しなけ

ればならない。職員さんの話を聞いてみたら非常に余裕あるような説明が多いんですね。我々議会としては、この運営については職員さんの話が安易なので私もびっくりするような状況です。委員会を重ねるごとに、いろんな資料が出てくるのを見させていただきたいと考えております。

(田口委員長)

今まで第三セクターで経営してきたっていうのが一つの課題の根本であることはよくあるケースで、これは第三セクターっていうその形の仕方の変更で対応できる話なのか、あるいはもう根本的なもっと根本的な話なのかっていうあたりは、もっと議論をしていかなくちゃいけないかと思う。このため、経済の専門家の先生方が呼ばれ、観光とは地域にとってどうなんだことを見ていくことだと思いますけども、いろんな視点からですね見ていくことは、大事だと思いますし、議会の皆さんもその町民の代表でありますので、その辺りはバランスよく議論させていただければありがたい。今回は事務局にたくさん要望を出しておいて、ちょっと次回までに事務局にいろいろ対応を考えていただくということだと思います。

(山田委員)

今回、観光施設のあり方ということですが、町内には6施設全部であると思う。この中でまぜのおかオートキャンプ場が結構ウエート占めると思う。先ほどから経済効果や収支など、いろんな議論がありますが、私はこの地元でありますので、まぜのおかオートキャンプ、遊遊 NASA、リビエラの職員はみんなそれぞれ一生懸命にやっています。どうにかしなければいけないというのを感じます。だけど何かが足りない。例えば、事例を挙げると大学のキャンプがまぜのおかであるということで、10人ほどの宿泊を私が手配することになった。NASAに連絡したら5部屋空いているが10人泊まるには足りないと分かったので、リビエラは空いているかどうかを聞いたところ、リビエラの情報は持ち合わせておりませんと言われた。

(田口委員長)

(職員に)そこを捕まえたいと思う意志があるかどうかですね。

(山田委員)

他にも、まぜのおかのオートキャンプ場では、ずっと10年間でインディゴソックスのキャンプを約150万の支出で誘致していました。今年からこういう財政厳しい中ですから、このキャンプをストップすることになった。この際、まぜのおかの事務局長がインディゴのマネージャーに向けて、公式戦開くのであればまぜのおか、海陽町は一切準備、後片付けしませんという文書を出した。キャンプをストップしてまだそういう文書を出すインデ

ィゴソックスにとっては別に海陽町で公式戦をする必要がないんです。一試合ホームゲームするの 50 万かかるんです。私とするとこれをあえて海陽町でやってくれていると思っていたんですけども、やらしてやっているみたいな感じがあるんですね。（そういう文書を出すことに対して）まぜのおかオートキャンプ場の事務局長は町の執行部ですか、町長や副町長のような立場で物事を考えられてるんですかと疑問がある。まぜのおかが企業運営をしているなら 150 万の売上げなくなったら困るのではないかと言いたい。

資料では、指定管理を行う中で経費を入れている。これは色々な修繕費などがありまして、ようけども例えば 150 万円足らない場合は、結局（町が）また補填するのでしょうか？

（横委員）

内容にもよります。

（山田委員）

商売人の感覚で言えば、同じ町のお金の 150 万を使うのであれば、40 人を夢を叶えるため、NPB（日本野球機構・ドラフト）を目指すところに投資するのか、電気代が足りないので補填してあげるのか、どっちなのかを考える。インディゴソックスが海陽町に落とさないという人もいるみたいだけど、電灯代や朝夕の食事代、飲料などでお金は動いてます。町として、大学や短大のキャンプも誘致したいというのは理解できる。ただ、インディゴのキャンプの日程上中々難しいのであれば、まずは相手との調整を行えばいいのではないかと。時期的なところでいろいろ考えて提案を出して、その結果相手が断ることもあるかもしれないが、そういったことも考えるべき。これまでやってきて、（インディゴソックスは昨年）NPB（日本野球機構・ドラフト）に 6 人を送り込んだり、10 年続けて送り込んでいるところであり、海陽町のキャンプが貢献している部分もあるはず。町が財政状況を考えてのことは分かるけども、経済効果だけでメリットがないということでそういう判断をするのは如何と思うケースもある。

（田口委員長）

恐らく考え方ですね、先ほど申し上げたとおり、その施設で収益を上げるっていう考え方とか、そこは赤字でも周辺にしっかりお金が落ちてるのかっていうのは、中心市街地も同じ議論になっちゃうんですけども、だからその辺りをきちんと施設の性質を明確化をしていかなくちゃいけないですし、逆に言うと今おっしゃったようなやつってのはもう、従業員の意識改革みたいな、話があってですね、実は同級生に星野リゾートで、宿泊施設の再生とかいっぱいやっているんですけど、彼らとか、同じ従業員の気持ちを変えるだけだっておっしゃってるんですね。やっぱり、その従業員が、1 人一人が考えるのかどうかによって全く違うってことよく聞いているんですけども、山田委員がおっしゃった部分になるかと思う。ただ、どうしてもやっぱりその第三セクターっていう、形態体系の一つの側面

もあることは事実であるが、だからといって施設全体を否定するというよりは、どういう方向性での変更が、施設が持つるポテンシャルがそもそもないか、あるいは、本当はあるのに全く生かせないという状態なのかということをきちんと判断して、次の方針に振替えていく。ということがこの委員会の一つ大きなミッションだと思いますので、やっぱりその辺りは俯瞰的に見てですね、この施設だけの経営だけを見るんじゃなくてやっぱり、そのためにはぜひ、どういったところに波及してるか、周辺情報がどうかっていうあたりは事務局に調べていただきたい。

(青木委員)

(指定管理を) 任された事業者によってどうなるのか。県内でいうと、道の駅板野があり、どこの事業者かは存じ上げていないが運用事業者がいて、一方で鳴門のくるくるなるとは、今、集客がすごいと言われており、静岡の業者が運用事業者としてやっている。板野が流行っていないわけじゃないけども、任される事業者によって流行するというのは分かっているような状況。

(田口委員長)

恐らくそこもですね、今、特に時代とか情報がすごく早く変わっていく時代なのでそこについている業者と、ちょっと前の成功体験のパターンの事業者によって多分差が出ちゃうところもありますし、ただ一方で全部県外に任せてしまってますね、そのお金をどんどん流出していくってことが妥当なのかというのもそのバランス感覚もどっかで、恐らく考えなきゃいけないっていうことになる。だから、1番はやっぱりそういうノウハウがしっかりここに残っていくってことだと思いますので、その辺りは民間に任せるにしても、どういう条件を付加するかみたいな話は考えながらやっていかないと、全部吸い上げられてもらってしまうことになって、一番不幸なことだと思う。やっぱりただただ民間業者も商売するんですから、そうなったら、冷静に見てくると思うので、そのためにやっぱりきちんと議論してどういう評価軸というか、どういう条件づけみたいなことを、バランスよく考えていけるかが課題。確かに業者によって全然違うことになると思われる。

(田口委員長)

今回の委員会で、事務局の皆さんにいっぱい次回の委員会で情報を出してもらう、宿題が出てる状況だと思うんですが、ここは事務局皆さんには、有益な会議にしていこうため頑張ってください必要があります。よろしくお願いします。